

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

3

Mar 2021
No.312



大好きなサッカーを仲間と満喫

新余目支所管内 武田 和雅さん(25)



小学2年生の頃からサッカーを始め、高校卒業まで毎日のように練習し、熱中していました。社会人になり数年間はサッカーから離れていましたが、昨年に友人からの誘いで「余目FBC(フットボールクラブ)」に加入しました。庄内町余目地域に住む20代の社会人で構成するチームのため、学生時代のチームメイトや対戦相手と一緒にプレーすることができ、みんなで当時のことを思い出しながら楽しく活動しています。創立2年目のチームですが、去年の地区リーグでは優勝を果たすことができました。今後も楽しむことを一番に、1点でも多く点を決められるよう練習に打ち込んでいきたいです。



これからも一致団結して
勝利を目指します!

元気で優しい子に育ってね!

立川支所管内 岩崎 百香ちゃん(3)・琴音ちゃん(1)

人懐っこく妹の面倒見がいい百香ちゃんは、保育園で音楽に合わせて踊ったり、友達とおままごとや人形遊びに夢中です。

保育園から帰ってきたお姉ちゃんを玄関でお出迎えしてくれる琴音ちゃんは、何にでも興味を示す好奇心旺盛な女の子です。

いつも元気な仲良し姉妹!

あいと
キッズ

母さんと一緒に
料理のお手伝い
をするよ!

お菓子か
わがよ!

ファミリーファーム

三川支所管内 マッケーナ・スティーブンさん(37)
美津さん(43)

異国での農業に
確かな手応え

(スティーブンさん) 14年前に初めて庄内地方を訪れた際、自然豊かで広大な田園が広がる景色にとても魅了され、帰国後もその想いが忘れられず、アイルランドから三川町に移住しました。その後、妻の実家で稲作を手伝う中で、初めて日本の農業に触れ、4年前に就農を決意。現在は、会社勤めをしながら、水稻と軟白ねぎを栽培しています。

昨年、JAの軟白ねぎ新規植者講習会に参加し、栽培のポイントや防除方法などを学びました。ハウス栽培に挑戦しており、異国で始めた農業に手応えを感じる毎日です。

日本の農業は、繊細で徹底された栽培管理と品質の高さが素晴らしいと思います。今後は、自分の技術レベルに合わせた目標を決め、軟白ねぎの品質向上と作付拡大を実現していきたいです。



庄農生トライ

SHONOSETRY

野菜の美味しさを漬物で

食料生産科3年 斎藤 駿一さん 鶴岡市

家業である農業について深く学びたいと思い、庄内農業高校に入学しました。授業で、食品加工に関する知識や技術、衛生・製造管理

などを学び、食品加工に興味が湧きました。2年次のインターンシップでは、食品加工の職業を体験し、将来の仕事にしたいと強く思うようになりました。高校卒業後は、食品加工(漬物)の会社に内定をいただいたので、農家の方が丹精込めて作った野菜の美味しさを、漬物という形で幅広い世代に伝えていけたらと思います。





種誘導に尽力していきます。
JAでは、山形県のスリーブ
ランである「つや姫」「雪若
丸」「はえぬき」を柱に、庄内た
がわ産米のブランド確立を目指
しています。今年産は、つや姫
見込み面積とし、高品質・良食
味の安定生産に向けた栽培技術
指導と、販売情勢を見据えた品
種誘導に尽力していきます。

約2200ha、雪若丸約650ha、
はえぬき4300haを作付

12月31日現在)

「つや姫栽培技術研修会」が開かれました。県産米「つや姫」の栽培認定者を対象とした同研修会では、昨年の作況を振り返り課題を発見することで栽培技術の底上げを図り、より高品質な「つや姫」の生産を目指しています。管内の20年産米は、全品種平均で一等米比率が98.5%を記録し、前年産を2.2%上回りました。特に、「雪若丸」は1等米比率99.5%、「つや姫」は99.2%と品種間においても、高品質の結果となりました。また、山形県全体では94.5%と、全国1位に輝きました。(2021年1月には各支所で

2021年も ブランド米を確立!

**産直人気農マルシェ
オンラインショップ**

こちらをCHECK!

管内の主力米「つや姫」「はえぬき」などを販売中!



高橋 隆さん
水稻作付面積：10ヘクタール

だし風の強い地域ですが、粘土質な土壤のため保肥力が高く、高品質な米に育ちます。全作付面積での土壤改良剤を使用した土づくりに力を入れ、誰が食べても美味しいと言われるようなお米を作りたいです。



鈴木 仁さん
水稻作付面積：16ヘクタール

私の地域は砂壤土で生育が早まる傾向にあるため、毎年収穫適期を見逃さないよう努めています。「田んぼの足跡の数だけ結果がついてくる」をモットーに、雪が解けてからは毎日のように田んぼへ出向き、高品質でおいしいお米を生産していきます。



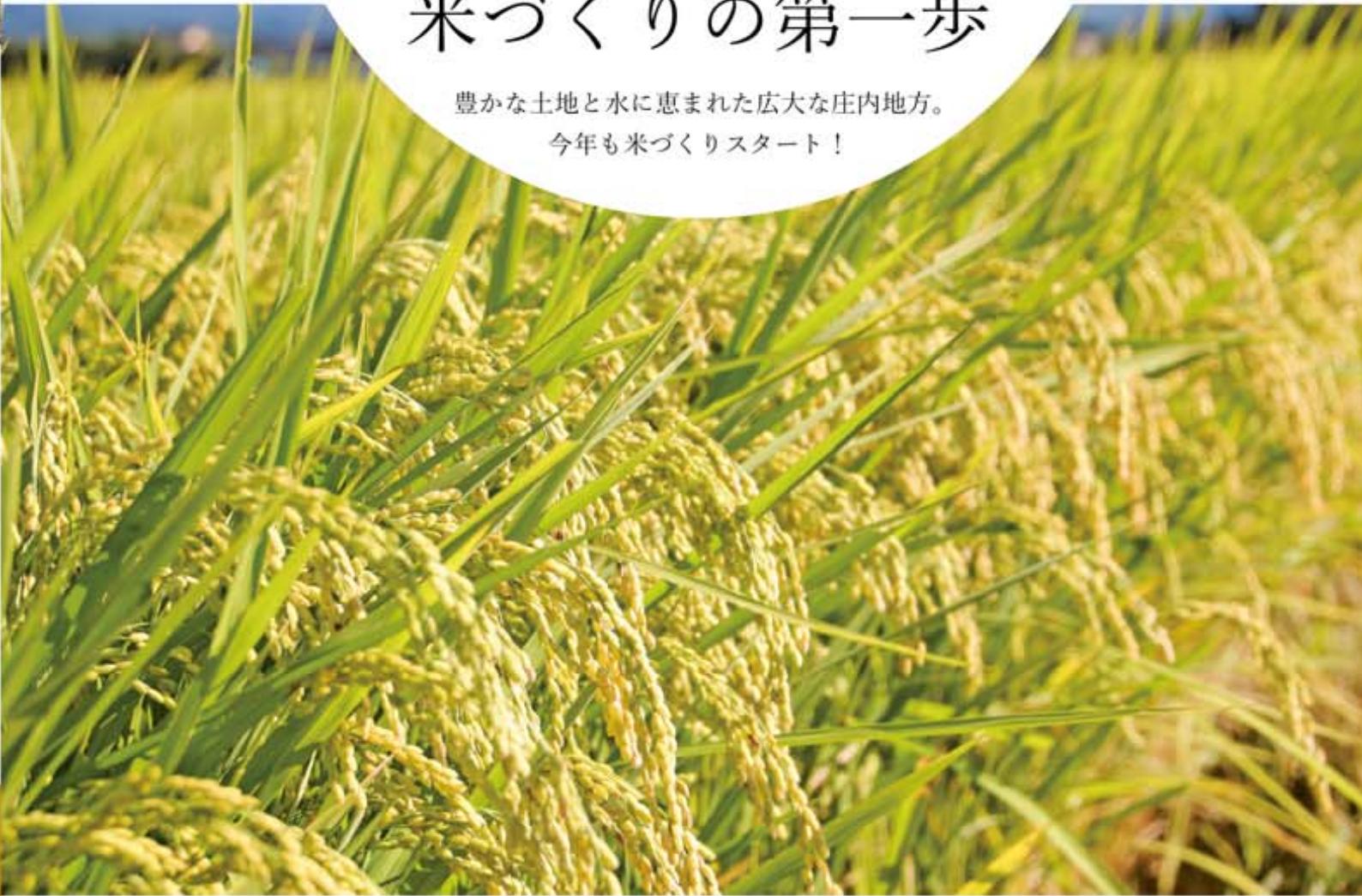
丸山 良治さん
水稻作付面積：5ヘクタール

私のつや姫の圃場に流れてくる水は夏でも水温が低いため、稻は猛暑に負けず順調に生育が進みます。苗の活着を良くする肥料や、高品質米を作るためにリン酸を含んだ肥料を使用するなど、品質を追求した土づくりに努めています。

さあ、今年も始めよう 米づくりの第一歩

豊かな土地と水に恵まれた広大な庄内地方。

今年も米づくりスタート！



種まき作業に向けた 事前準備は念入りに！



3月



種子を60°Cの湯で10分間消毒した後、冷水に浸します。

厳しい冬を越え、今年もいよいよ稻作が始まります。3月に入り雪解けが進むと、田んぼや育苗ハウスの準備と点検、種まき作業に向けた水稻種子の温湯消毒などが管内で行われます。

櫛引地域のJA水稻育苗施設では、温湯消毒が3月上旬からスタート。消毒後は、種糲に水分を吸収させる浸種を2～3週間行い、発芽のタイミングや成長速度を揃えるため催芽処理を実施します。そして、種まき作業に向け、4月に生産者へ水稻種子が渡されます。

4月

種子消毒
育苗ハウス準備
圃場準備
etc...
田起こし
育苗巡回

産直／バレンタインにスイーツバイキング

産直施設んめ農マルシェは、2月11日から14日まで、バレンタインフェアを開いた。店頭でスイーツバイキングを行った他、ギフト用ワインセットを販売し、店内はバレンタインムードに包まれた。スイーツバイキングでは、店内産米粉を使ったロールケーキやチョコケーキ、ミルクプリンなど約10種類のスイーツを販売。フェア限定企画で、バレンタイン仕様のラッピングとリボンで可愛らしく装飾したワインのギフトセットも用意。また、同産直の「LINE」アプリで配信した限定クーポンの提示で、ギフトセット10%割引を実施した。期間中、多くの女性客が来場し、賑わいを見せていた。



バレンタインデーのプレゼントに笑顔溢れる

子会社の株あいとサービスは2月14日、バレンタインデーのイベントとして、同社のガソリンスタンド7カ所で給油した来店者へお菓子の詰め合わせをプレゼントした。藤島地域にある「ふじの花ロード」では、従業員がチョコレートやキャンディなどを一つ一つ丁寧に袋詰めした約300個のプレゼントを用意。従業員からお菓子を受け取った来店者は「ありがとう」と笑顔を見せた。同イベントは、利用者に日頃の感謝の気持ちを伝えようと、毎年同日に開かれている。伊藤伸司燃料課長は「今後も利用者目線に立ったサービス提供や、喜んで頂けるようなイベントを企画していきたい」と話した。



女性部／手作りの「こだわりみそ」作業スタート

女性部が手作りする「こだわりみそ」の仕込み作業が、JA農産加工技術研修施設で2月22日から始まった。同施設では、部員ら約20人が連日米こうじ作りや大豆の蒸し作業などに励んでおり、作業は3月下旬まで続く見込みだ。みそ作りでは、部員らの自宅で収穫された米と大豆を使用。添加物は一切使用せず、米・大豆・塩のみで造られている。毎年2月と11月に手作業での仕込みが行われ、一晩寝かせた米こうじをならした後、塩と蒸した大豆を混ぜ合わせ、約8ヶ月間熟成させるとみそが完成する。出来上がったものは、女性部まつりなどで販売される他、藤島地域と三川町の学校給食にも提供している。



春の風物詩「笹巻き」作業スタート

庄内にあるJA農産物加工施設では、2月16日から庄内地方の春の風物詩である笹巻き作りがスタートした。同施設の作業員5人が需要が高まる端午の節句に向け約15万個作る予定で、作業は5月末まで続く。黄色と白色の笹巻き2種類が作られ、黒蜜やきな粉、黒砂糖などをつけて食べられる。黄色は灰汁水で煮ることで、飴色に輝く色合いと程よい弾力のある食感が生まれる。白色は水で煮込むため豊かな笹の香りとともに米本来の味わいを楽しむことができる。地元のAコープや生協、通販サイト「JAタウン」などで販売される他、同施設では電話注文も受け付けている。(TEL: 0234-56-3900)



地域とJAを結ぶネットワーク 各地の話題を追って

JA NEWS

再載記事の詳細はホームページに掲載しております



菊／予冷庫活用で有利販売を実現

花き部会菊・スプレー菊専門部は2月10日、JA藤島支所で総括検討会を開いた。予冷庫を活用した前々日集荷による市場への早期数量報告が奏功し、1本当たりの取引単価が前年比114%の8円高となり、有利販売が実現した。JA園芸特産指導員が作況や販売実績などを報告。7月の多雨・日照不足と9月の猛暑により収穫量は減少したものの、部員らの徹底した栽培管理により病害虫発生は少なく、品質保持につながった。来年度は、県庄内総合支所農業技術普及課と連携し土壌分析による高品質栽培に向けた土づくりの他、夏季の高温対策として夏秋品種の導入で収穫量増加を図っていく。



産直へ通年出荷できる栽培方法学ぶ

営農販売部販売課は2月16日、産直施設んめ農マルシェで産直協力会員を対象とした野菜の栽培講習会を開いた。参加した会員ら約20人は、気象変動に対応するための栽培方法などを学んだ。講師を務めた同部園芸特産課の栗田公司さんは、ホウレンソウやトマト、ニンジンなど日常野菜を栽培する際の留意点を説明。多肥を避けた適切な土づくりや降雨時の排水対策と病害虫防除の徹底を呼び掛けた他、産直に地元産の野菜を通年出荷するため、気象変動に左右されにくい品種の導入を会員らへ提案した。販売課では今後、高品質な野菜を産直に出荷できるよう会員らの栽培技術の底上げを図っていく。



トルコギキョウ／適切な土壌作りで初期生育の確保を

花き部会トルコギキョウ専門部は2月26日、JA新余目支所でトルコギキョウ栽培講習会を開いた。参加した専門部員約20人は、今年産の定植に向けた栽培のポイントや病虫害防除について入念に確認した。講師を務めた担当職員は、土壌作りの留意点や農薬による病害防除方法などを説明。定植前に圃場へ十分な水分を与えて地温を約10度に保つ他、定植後は適切な温度管理と灌水で初期生育を確保することが重要だと呼び掛けた。同専門部では今後も、天候不順で生育や品質が左右されないように防除の徹底や定期的な圃場巡回などを実施し、取引市場への高品質出荷につなげていく。



「心の声」

卒業シーズン。
あなたの学生時代の思い出は？

中学の時、憧れの先輩の卒業はとても悲しかった！その後、高校生になり通学電車で見かけることがありました。乙女心はなんとまあ薄情で、憧れの先輩はすでにときめく存在ではなくなっていました。(笑)

E・Hさん【新余目】

高校生の頃、舟木一夫の「高校3年生」が流行っていた。夏、キャンプファイヤーをやった時も皆で歌ったことが忘れない。この歌は、学生はもちろん幅広い年代の人々に愛された歌だと思う。K・Sさん【羽黒】

高校受験、合格発表、電車での通学、腕時計、中学卒業して今まで一緒だった友はそれぞれの進路へ。部活動も良い思い出です。

Y・Uさん【新余目】

私は高校時代、陸上部でした。毎日グラウンドを暗くなるまで走っていました。あの練習に耐えたことは今でも頑張る力の源になっています。顧問の先生が「陸上競技即人生」と話されたことは、私の座右の銘になっています。K・Yさん【朝日】

大学生活最後のゼミです。強烈なエネルギーを持った人ばかりで、胃もたれしそうなくらいの充実感でした。また会える日を楽しみにしています。R・Yさん【福岡県】



庄内大好き
aito

Mar 2021
No.312

発行／庄内たがわ農業協同組合 〒999-7611
山形県鶴岡市上藤島字備中下3-1 TEL.0235-64-3000
電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp
印刷／庄内農村工業農業協同組合連合会



ホームページ

Twitter

Instagram

さいとう りか
齋藤 里香さん(23) 藤島支所管内

大好きな地元に就職し、休日はよく友達とドライブに出かけてリフレッシュしています。遠出ができるようになったら車で旅行したいです。

撮影場所=Café & Galerie JUJU (庄内町余目)